令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	神奈川県	学校名	神奈川県立鎌倉支援学校

人権課題	子供	対象学年・取り扱った教科等	肢体不自由教育部門 小学部１年・自立活動	時数等	５時間

目標・人権教育のねらい	・自分なりの方法で使いたい遊具を選び、伝える。 ・選んだ遊具で遊んだ後、イラストの描かれた感想カードを選んで、自分の気持ちを発表する。 ・自分なりの方法で選択し伝える経験を積み重ね、自分の気持ちを表出する。
実施した内容	・２つの大型遊具の写真を、iPadのアプリを使って見比べ、タッチで遊ぶ。 ・iPadのアプリで選んだ遊具を使って、遊ぶ。 ・『がんばった』『たのしかった』のイラストカードをタッチして選んだり、視線を向けたりして、気持ちを発表する。
工夫した点	・本人の動き、興味関心の高さや、見やすい提示方法、選択肢の数など意思表出しやすいように工夫し、様々な場面で活用しやすい汎用性の高いものを、教材として選んだ。 ・授業の導入として教員と一緒に『できるかなたいそう』を行い、楽しみながら身体を動かすことで、意欲的に授業に参加できるようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・生活や音楽、図工等、学校生活の様々な授業や活動場面で、選ぶ・伝える方法や手段を確立し、学習を行っている。
事業成果	（１）知識的側面：選ぶものが何かということを理解する。 事業開始時：選ぶ対象のものに注目しているのか、手を意識的に動かしているのか、判断することにわかりにくさがあった。 児童の変容：iPadアプリ「DropTap」を使ったことで、児童にとって選ぶ対象のものが明確に伝わり、しっかり注視できるようになった。 （２）価値的・態度的側面：児童にとって興味関心の高い大型遊具を題材にし、課題へ積極的に向き合う態度を養う。 事業開始時：大型遊具を目の前に並べて提示するやり方の時は、視野を広くしてとらえることが難しかったようで、見通しが持てないことも多く身体をのけぞらせて『いや』を表現することも多かった。 児童の変容：iPadアプリ「DropTap」やカードで提示したことで視界にとらやすく、選択肢や問いへの見通しをもつことができ、最後まで積極的に自分から活動に取り組むことができた。 （３）技能的側面：指差しや視線を向けるなどの動作で、しっかり相手に伝わるように選び、自分から表出する。 事業開始時：実物やカードを払いのけるような動きが多く、選んだのか拒否なのかが周囲に伝わりにくかった。 児童の変容：iPadアプリ「DropTap」を使ったことで、指差しで選んで伝えることができるようになってきた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	神奈川県	学校名	神奈川県立鎌倉支援学校

人権課題	障害者	対象学年・取り扱った教科等	肢体不自由教育部門 高等部１～３年生・特別活動	時数等	６時間

目標・人権教育のねらい	・防災体験（段ボールベッド移乗、清拭体験）を通して、音・視覚・触覚などの感覚刺激に気づき、自分なりの反応を示すことができる。 ・避難所という“いつもと異なる環境”と見知らぬ支援者を受け入れ、他者を意識することができる。 ・生徒一人ひとりの小さな反応（視線、表情、動き）を「意思」と捉え、受け止めてもらえる体験を積むことで、自己表現への自信を育てる。また、困ったときに自分の気持ちや必要な支援を表出する力を伸ばす。
実施した内容	・命の大切さを実感させ、児童・生徒同士における相互理解と尊重を促すために、地域の中で自分の命を守る力を育てることについても、人権教育の重要な視点であると捉え、防災・安全教育を行った。 ・見通しを持たせるため、スライドを用いて今日の活動内容の流れを確認し、「今日は知らない人もいる」「いつもと違う環境で過ごす」といった災害時の特徴を伝え、見通しをもった上で学習へ参加した。 ・防災をテーマとした絵本の読み聞かせ、オノマトペ（「ぐらぐら」「どーん」など）に合わせて身体刺激を取り入れ、活動への興味を高めた。 ・ボランティア（見知らぬ支援者）による清拭体験では、温かい布・冷たい布など異なる感触を体験した。 ・五感を意識しながら“いつもと違う食事”をあえて経験することで、災害時のイメージを具体化した。
工夫した点	①五感刺激を生かした教材の工夫 ・音（絵本のオノマトペ）、触覚（清拭の温度差）、視覚（スライド提示）など、情報の取り方が異なる生徒に合わせ、多様な刺激から注目しやすくなるよう工夫した。 ・段ボールベッドの素材に触れる場面を先に設け、初めての活動でも安心して取り組めるようにした。 ・教室内を避難所レイアウトに変更、物品などをいつもと“あえて変える”ことで環境の違いを体感させた。 ②「見知らぬ支援者」との関わりを意図的に設定 ・災害時の支援受容を模擬的に体験できるよう、学生ボランティアに参加してもらい、清拭を実施した。 ・生徒の小さな反応（表情・発声・視線）を支援者が必ず受け止め、応答することで「やり取りが成立する体験」を設けた。 ③繰り返しの活動による見通しと安心の形成 ・第１～５時まで同様の活動（絵本→移乗→清拭→振り返り）を重ね、流れを理解しやすくすることで主体的な参加につなげた。 ・清拭の手順や声掛けを統一し、毎回同じプロセスで安心して取り組める環境づくりを行った。 ・プライバシーへの配慮を行った。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	本単元は、小学校学習指導要領「生活」の「身の回りの安全」、「人との関わり」の内容と関連付けた。 防災体験を通して、災害時に安全に過ごすための方法に気付く学習となった。また、見知らぬ支援者との関わりを経験することで、人に支えてもらうことへの理解や自分の気持ちを伝える重要性に気付く学びにつながった。
事業成果	（１）知識的側面：慣れない人との関わりの中で支援を受け入れる。 ・絵本の場面や体験活動を通して、災害時の支援物品（段ボールベッド、防災毛布、清拭など）に興味を向けることができた。 ・「今何をする場面か」を知るために、活動の流れを示すスライドや教員の声掛けに注目した。 ・最初はいつもと違う環境を感じ、緊張が見られた生徒もいたが、多くの生徒が環境を受け入れていた。 （２）価値的・態度的側面：日頃関わりの少ない慣れない人との関わりの中で自分の意思を表出しようとする。 ・繰り返して活動を行うことで見通しが持て、安心して参加する様子が見られた。 ・「見知らぬ支援者」との関わりに落ち着いて取り組み、支援を受け入れられる姿が概ね見られたが、中には泣いて「嫌」という感情を表出している生徒もいた。 ・振り返りの場面で、視線・表情・動きなど、自分なりの方法で気持ちを表そうとする様子が確認できた。 （３）技能的側面：清拭体験を一緒に取り組み、知らない人と一緒に防災食を食べることができた。 ・清拭の温度差（温かい布・冷たい布）、段ボールの素材、体験中の音などの刺激に対して、驚き・快・不快などの感情を自分なりの反応で示した。 ・支援者の声掛けに対して視線を向けたり、表情を変化させたり、身体の動きで応じるなど、何らかの表出が見られた。 ・参加した生徒全員が学生ボランティアと食事をとることができた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	神奈川県	学校名	神奈川県立鎌倉支援学校

人権課題	外国人	対象学年・取り扱った教科等	肢体不自由教育部門 小・中学部全学年・ 自立活動・外国語・国語・社会	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	・外国の文化、民族等の違いを知ることで多様性を理解し、他者を尊重する態度を育成する ・外国語に親しみ、外国に関する興味・関心を広げ、言語だけではなく、身振り手振りや表情・視線の動きなどで感情や意思を伝えあい意思疎通（コミュニケーション）を図る。 ・ALT（Assistant Language Teacher）の先生と仲良くなり、英語の活動を楽しむ。
実施した内容	・英語の歌 （① Head Shouldersの歌　② 7 Stepsの歌　③ クリスマスの歌 ④ London Bridge is Falling Down） ・英語で自己紹介 ・英語の絵本読み聞かせ ・講師の母国の文化、宗教、食べ物などについて学ぶ
工夫した点	・ALT外部講師による出前授業を実施した。 ・英語の歌では、日本語でなじみのある曲や手遊び等を取り入れ、何度か繰り返し行った。 ・ゲームや手遊びなど楽しい雰囲気で進めた。 ・色を選ぶ際は、色画用紙で色を表示し２色から選んだ。 ・ALT自己紹介では、視覚教材として伝えたい内容（国の名前や位置、国旗など）をスライドで提示した。 ・授業の中で、生徒からALTにむけて表出があった場合は教員が読み取りALTに発信した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・外国語に親しみ、やりとりの中で得意な表出方法を用いて、発信する方法という面で自立活動の「コミュニケーション」と関連づけた。

事業成果	（１）知識的側面 ・聞いたことのある曲が英語の歌詞で歌われ、手遊び等を何度か繰り返したことで楽しんで参加し、英語の歌を知ることができた。 ・異なる文化、宗教、食べ物などについて知ることができた。 （２）価値的・態度的側面 ・英語の絵本の読み聞かせでは、異なる言語での活動を受け入れ、他国の文化に親しもうとする姿が見られた。 （３）技能的側面 ・自己紹介の際にALTから自分の名前を呼ばれると笑顔になっていた。 ・色選びでは、視線でカードを選択し、ALTに優しく手渡すことができた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	神奈川県	学校名	神奈川県立鎌倉支援学校

人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	高等部（分教室）１～３学年・情報	時数等	３時間

目標・人権教育のねらい	・インターネット上でも人権が守られるべきであることを理解する。 ・投稿や情報発信が他者の尊厳を傷つける可能性があることに気づく。 ・自分や他者が困ったときに、信頼できる大人に相談する力を身につける。
実施した内容	・「６秒ルール」と「インターネット５つの約束」 ・クイズ形式で考える人権侵害の可能性 ・家庭でのルールづくり
工夫した点	・専門家である外部講師による出前授業という形で実施。 ・身近で起こり得ることを題材に、学習させたい内容を焦点化。 ・その行動がどんな結果（リスク）をもたらすのかを理解させるアプローチで学習を展開。 （守るべき行動規範、リスクのある行動によってどのような結果が発生するか、行動規範を守ることで低リスクになることが理解できる。） ・視覚教材やワークシートの活用 ・事後も定期的に確認のチェックシートを活用し、知識の定着を図っている

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・本単元は、情報の「情報モラルやセキュリティ」を中心に、社会の「人権の尊重」、特別活動の「相談できる人間関係づくり」など、人権と情報社会に関わる複数教科の内容と横断的に関連付けて構成している。
事業成果	（１）知識的側面：「ネット上でも人権を守ることや、個人情報を大切にすることが分かる。～インターネット上の人権理解度～」 ・インターネット上でも人権を守る必要があることを改めて認識する機会となり、インターネット上においても個人が特定される危険性に気づく発言があった。 （２）価値的・態度的側面：「投稿前に相手の気持ちを考えるようになり、冷静に判断する態度を身につける。～６秒ルールとインターネット５つの約束の意識～」 ・送信や投稿前に冷静に内容を振り返る６秒ルールの大切さを知り、送信や投稿に関する慎重な態度の定着を図っている。 （３）技能的側面：「困ったときに先生や家族に相談できるようになり、安全に情報を発信する力を身につける。～相談行動の実践力～」 ・インターネット上のトラブルにおいても、困ったときに一人で抱え込まず、先生や家族に相談してよいことを再認識できた。